

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	メロディー		
○保護者評価実施期間	2026年1月15日		～ 2026年2月25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	60	(回答者数) 47
○従業者評価実施期間	2026年1月15日		～ 2026年2月25日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 10
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月4日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	こどもは安心感をもって通所している。	児童にとっても、保護者さんにとっても安心できる居場所づくりを基礎としている。	アンケート結果より、安心して過ごせる居場所として評価を得ている。 学校生活との両立を意識した支援や、個々の特性に応じた活動提供が満足感につながっていると分析している。 今後も学齢期に求められる社会性の育成や自立支援の視点を強化し、安心できる居場所機能と成長支援の両立を図っていく。
2	こどもは通所を楽しみにしている。	日々様々なプログラムを取り入れ、飽きやマンネリが来ないよう工夫している。 実際に新しく取り入れるプログラムはどれも好評でたくさん申し込みをいただいている。	
3	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されている。	様々な活動を通して楽しい経験をしてもらっているが、【楽しかった】で終わらせるのではなく、【楽しい】の中でそれぞれのペースに合わせたステップアップを目指し、将来や自立を目指してアプローチができるよう支援を行っている。	ご本人のニーズもご家族のニーズも大切に、それぞれに寄り添いながら支援をすすめていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされている。	感染症対策等、安全面への配慮から大人数での交流機会を控えていた。	保護者同士の交流や情報共有の場を増やすことができればさらなる安心や満足に繋げていくことができると感じている。
2	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われている。	また、園やご自宅までの送迎を行っているため、保護者同士の交流の機会が少なくなっている現状がある。	集団形式にこだわらず、個別面談の充実や必要に応じた情報共有の機会を確保することで、保護者支援の向上を図る。
3	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がある。	公園遊びなど、地域の児童との関わりはあるがその旨をしっかりと共有することができていなかった。 地域交流自体は積極的に行っているが、児童にフォーカスすることはできていない現状がある。	活動内容をしっかりと共有していく。 社会福祉協議会などさまざまな機関と連携をとりながら、地域行事への参加等、地域の児童と関わる機会を確保していく。